

令和4年群馬県成人歯科保健実態調査
調査報告書
(概要版)

群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課

(公社) 群馬県歯科医師会

I 調査の概要

1. 目的

現在、「第2次群馬県歯科口腔保健推進計画」が推進されていますが、平成29年度には成人歯科保健実態調査を行い、群馬県の成人期歯周疾患状況を把握し、「第2次群馬県歯科口腔保健推進計画」の目標値制定に活用しました。今回の調査は、県民健康づくり運動の成果を評価して、事業の検証、今後の指針を得ることを目的としています。

2. 調査期間

令和4年7月1日から7月31日

3. 調査対象

- ・(公社)群馬県歯科医師会の定める健診協力医の歯科医院を受診した患者で、当調査への協力が得られた者とした。
- ・35歳から84歳を10歳毎に区分し、1医院、各年齢階級2名で計10名、総数で1,000名を対象とした。
- ・回答が得られた人数は、1000名で、その内有効回答数は992名であった。

地区別歯科医院数

1	前橋市歯科医師会	18
2	高崎市歯科医師会	18
3	桐生市歯科医師会	10
4	伊勢崎佐波歯科医師会	10
6	渋川北群馬歯科医師会	5
8	藤岡多野歯科医師会	5
9	富岡甘楽歯科医師会	5
10	安中碓氷歯科医師会	3
11	吾妻郡歯科医師会	3
12	沼田利根歯科医師会	5
14	太田新田歯科医師会	10
15	館林邑楽歯科医師会	8
計		100

年齢階級別人数

	35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	75~84歳
人数	198	199	198	199	198

4. 調査項目

①生活状況（問診事項） ②歯牙状況 ③歯肉状況（C P I）

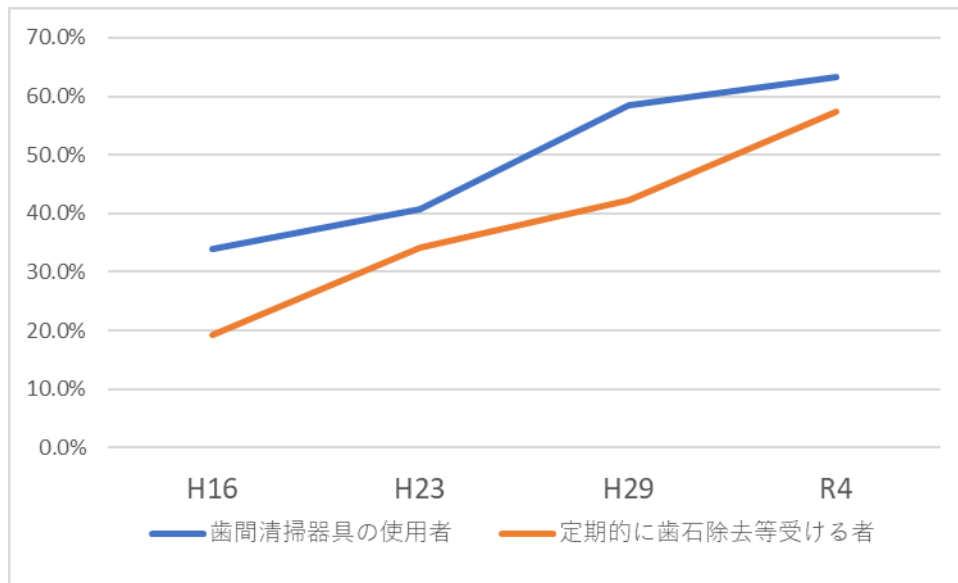
5. 調査票の回収

健診協力歯科医院で記載された調査票は、（公社）群馬県歯科医師会で回収し、記入漏れなどのチェックを行った。

II 調査結果のポイント

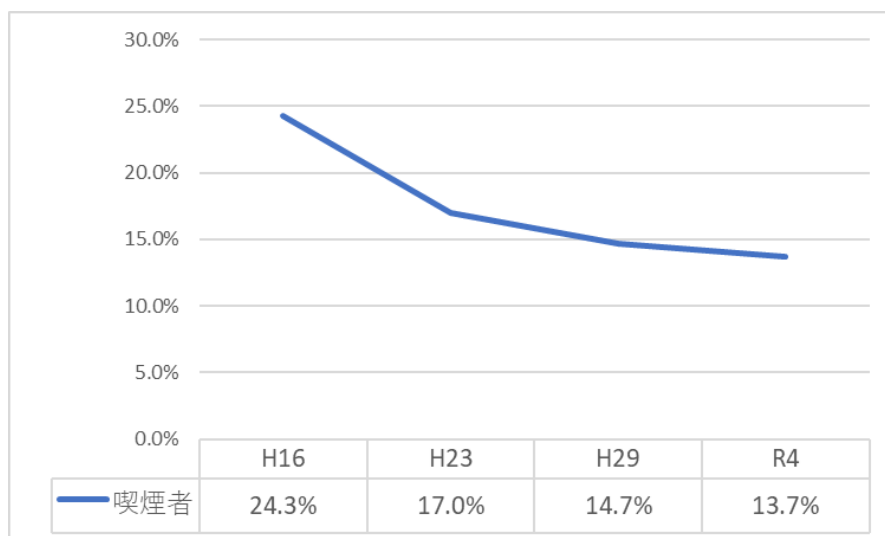
1. 問診事項

- ・「歯間清掃器具（フロス、歯間ブラシ）の使用」（58.3%→63.3%）、「定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者」（42.3%→57.3%）が前回調査時（H29）よりも増加しており、歯科口腔保健に関する意識の向上が示唆された。

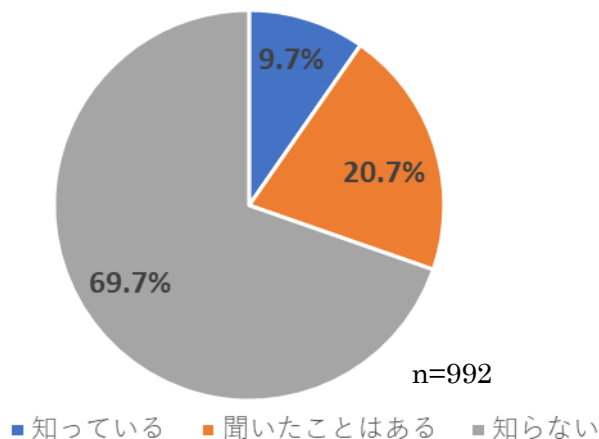


	H16	H23	H29	R4
歯間清掃器具の使用者	34.0%	40.7%	58.5%	63.3%
定期的に歯石除去等受ける者	19.3%	34.1%	42.3%	57.3%

- ・喫煙者について、前回調査（H29）に比べて減少していた。（14.7%→13.7%）

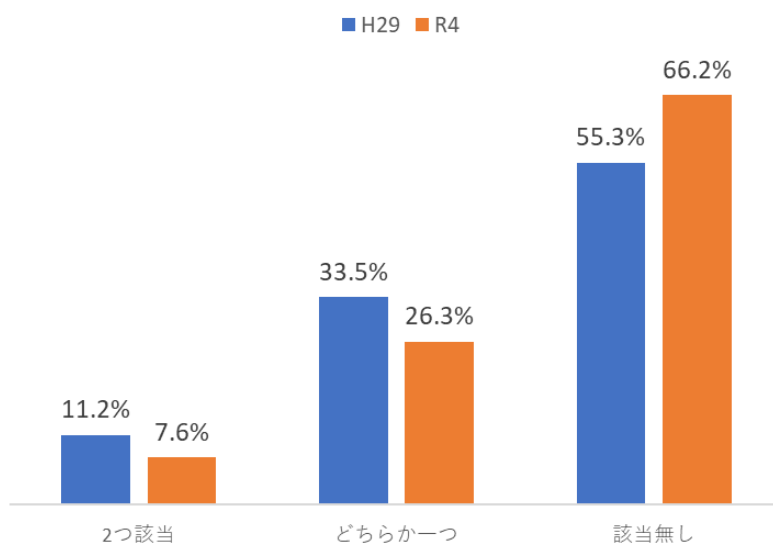


- ・「オーラルフレイル」という言葉について「知っている」、「聞いたことはある」と回答した者が30.3%で、前回調査（H29:12.2%）より増加していた。年代階級別に見ると、「65～74歳」が最も関心の高い層であることが示唆される。



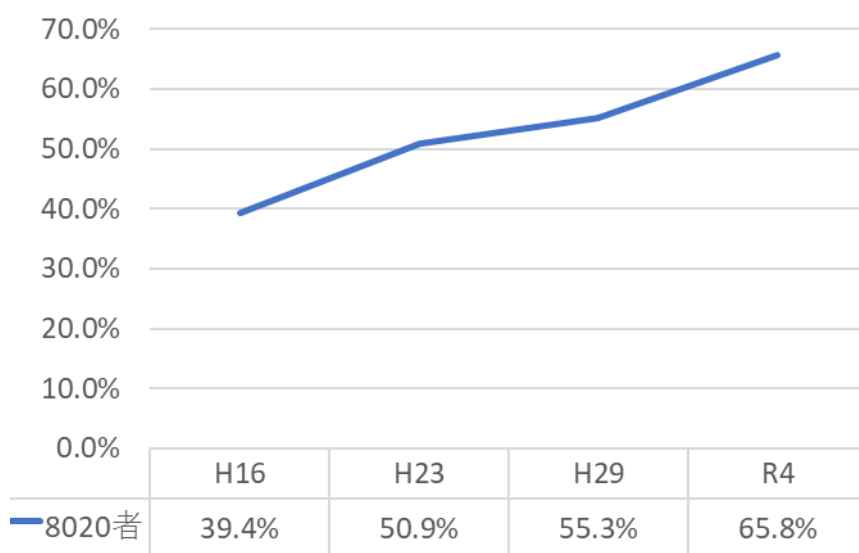
	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75～84歳
知っている	8.6%	6.0%	12.1%	11.6%	10.1%
聞いたことある	17.7%	16.6%	22.2%	26.6%	20.2%
知らない	73.7%	77.4%	65.7%	61.8%	69.3%

- ・後期高齢者における「むせ・食べこぼしがある」、「固い食品を嚙みきれない」の口腔機能に関する状況は、「2つ該当」、「どちらか一つ該当」のどちらも前回調査時より減少傾向にあった。

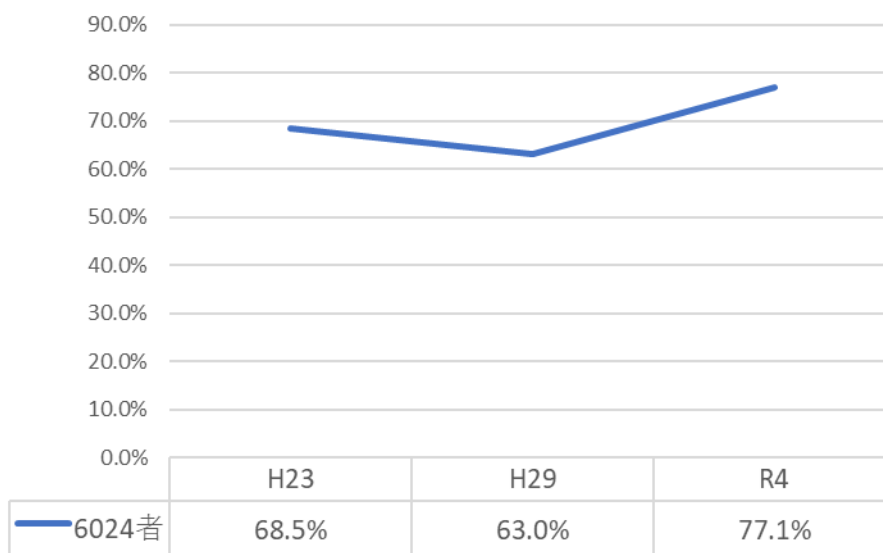


2. 歯牙の状況

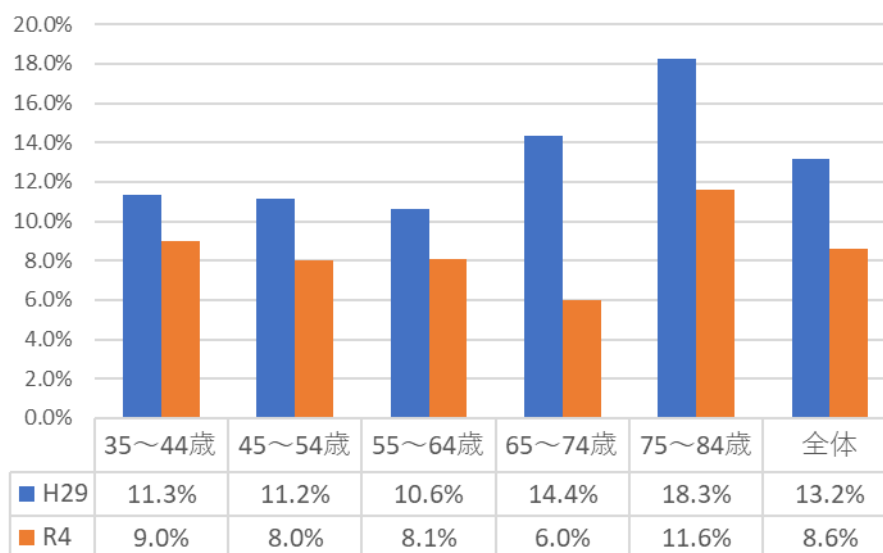
- ・ 80歳で20本以上自分の歯を有する者の割合（推計値）は65.8%で、前回調査（55.3%）を上回っている。



- ・ 60歳で24本以上自分の歯を有する者の割合（推計値）は77.1%で、前回調査（63.0%）を上回っている。

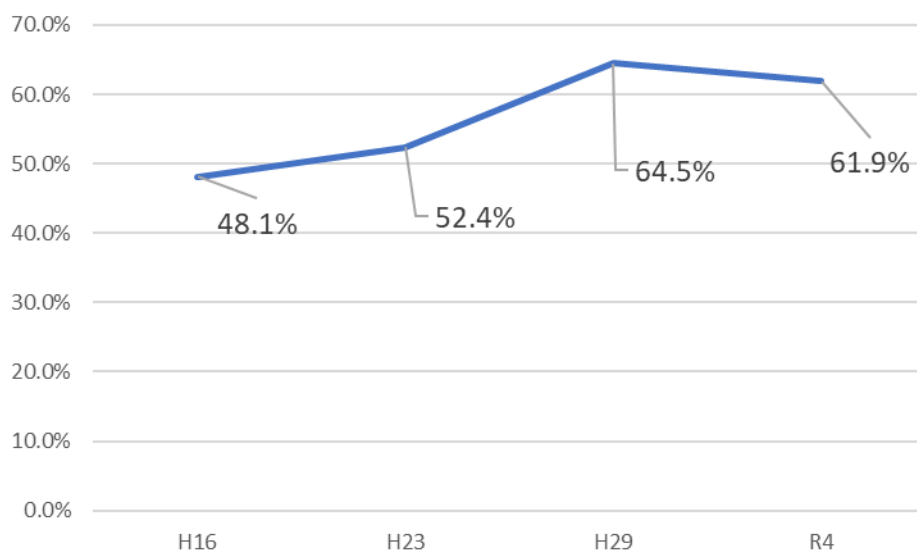


- ・口腔清掃不良者は8.6%で前回調査時(13.2%)より減少した。年齢階層別に見ても、全ての年齢層で減少していた。



3. 歯肉の状況 (CPI: Community Periodontal Index = 地域歯周疾患指数)

- ・歯周疾患が疑われる者の割合は6割を超えているが、前回調査 (H29) からやや減少している (64.5%→61.9%)



- ・ 歯周疾患が疑われる者を年代別に見ると、前回調査（H29）と比較して、35～64歳では減少しており、65歳以上ではほぼ横ばいであった。

